

# 令和6年能登半島地震における 耐震型ダクトイル鉄管の被害調査結果（11/8時点）



- 大規模な地盤崩壊等が発生した場所で、被災管を回収し原因調査を実施中である。
- 地震前後の地盤変位等が確認できたところから被災原因を特定しているが、山間部等の地図情報等が少ないエリアは現在調査中である。

発生場所	被災管	被災状況	原因	備考
輪島市	呼び径400NS形	継手離脱(1件) [2条配管×2箇所 計4箇所で被災]	大規模な地盤崩壊	別途詳細レポート参照 <a href="http://jdpatest.kes-web.com/download/20240522_noto_earthquake_damage.pdf">http://jdpatest.kes-web.com/download/20240522_noto_earthquake_damage.pdf</a>
能登町	呼び径200GX形	継手離脱(1件)	大規模な地盤崩壊	盛土道路の大規模崩壊
輪島市 (旧門前町)	呼び径100NS形	継手離脱(3件)	調査中	多数の崩落が発生した山間部の道路で被災。道路は谷底に崩落して遮断箇所が2か所。被災管を回収できず、調査できないものも含まれる。
		管体破損(1件)	調査中	
		継手離脱(2件)	接合不良	
		管消失(2件)	大規模な地盤崩壊	

計：10件

第3回上下水道地震対策検討委員会(2024/8/27)における水道管路の管種別被害状況(資料1)において、耐震型ダクトイル鉄管の被害19件と報告されている(アンケート結果)。しかし、当協会ではその他に上記呼び径400NS形(輪島市)と200GX形(能登町)を確認している。

その後、被害状況について現地ヒアリング等調査を行った結果、8件を除く残りの11件のうち、2件は空気弁の被災で耐震型ダクトイル鉄管の被害ではないことを確認している。残り9件についての詳細は確認中である。